

11月5日、理数科8組は7時20分に伊江港に集合し、民泊でお世話になったおじいおばあに別れを告げ、一足先に伊江島を後にした。修学旅行に行く前には、面識のない人の自宅に泊まることに対して、不安を感じるものもいたが、観察したい生物や採集したい植物などの個々の要望にも民家の方々に応えてもらい、充実したものとなった班も多いようであった。昨年から、8組の野外実習といえば雨がつきものであったが、今回も今にも降りだしそうな空の下での伊江島出発であった。そろそろ本部港に着くかなという海上で、伊江島でも目撃されていたアサギマダラに出会うことができた。夏に日光でアサギマダラ個体調査のため本校生徒も標識活動を行ったが、もうここまで南下してきているのかと、生物の持つ力に感動した。



アサギマダラ 27. 8. 5 霧ヶ峰



本部港より次の目的地東村慶佐次川に向けてバスで出発した。1時間もたつと沖縄特有のヒカリヘゴやイタジイを中心とする照葉樹林の中をバスは進んでいった。慶佐次ヒルギ公園では2グループに分かれガイドの方と国の天然記念物に指定されているマングローブ林の遊歩道を自然観察しながら歩いた。マングローブ林を形成する代表的な3種のオヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマスオウの特徴を聞き、生物が生きていくために持つ戦力の多様さに新たためて感心した。またマングローブに棲むシオマネキやトントンミーと呼ばれるトビハゼの姿を観察した。



マングローブ林の観察を終えると、潮も満ちてきたので、カヌーに乗り、川から観察を行った。2人1組となって、簡単な漕ぎ方を習い、いざ出発。担任の千馬先生は学生時代マイカヌーを持っていたほどの腕前で、マイビデオを完全防水仕様にして、生徒の雄姿 (!?) を撮影。1時間弱の川からの観察を終え (観察というよりは漕ぐのに精一杯だったかもしれないが)、慶佐次川の水を採取するなど、研究発表に向けての準備をする者も



いた。その後、昼食を取り、一路国頭村のやんばる学びの森へ向かう。車窓から見える風景はますます手付かずの森林となり、やんばる独特の赤い土壌 (酸性の強い国頭マージ) が観察される。夜はヤンバルクイナやハブなどが出てくるらしいが、さすがに午後の時間帯では会うことはできなかった。やんばるは沖縄県の中南部の水がめであり、いくつかのダムもあった。くねくねとした山道を登り、宿舎についた。



部屋に入り、トレッキングの準備をして、いざやんばるの森へ。ネイチャーガイドの方の話では、ここ最近急に寒くなり、また雨が降りそうで降らないことから少し見られる生物が少ないとのこと。4班に分かれ、それぞれネイチャーガイドの方に説明を受けながらトレッキングを開始した。沖縄では寒いというが、千葉から来た身にとっては湿度が高く蒸し暑く、ばて気味の人も見受けられたが、ガイドの方の話を野帳に書き留めながら、少しでも多くの生物を発見しようと血眼になっている生徒もいた。ヤンバルクイナより姿を見ることが難しいといわれているノグチゲラを観察できた班もあった。1時間半のガイドウォークを終えて、宿舎に帰り夕食を取った。地元の食材をたくさん使ったたくさんの料理はあっという間に空になっていった。



希望者はその後ナイトウォークに出かけた。昼間歩いたところと同じものとは思えないほど真っ暗な道は少し怖く何が潜んでいるかわからない不安を感じた。いろいろな生き物を観察することは難しかったが、発光生物の存在や生物の発する音に触れることができた。また、ヒメハブを根性で見つけた人もいた。消灯時間近くに漸く雲が切れ、見事な星空が見られた。消灯時間を延長して星を観察した。おうし座の流星群の時期に近かったせいか流れ星や火球などを見た。千葉で見る星の数との違いに、ひたすら感激している姿を多く見かけた。

11月6日。緯度の低い沖縄では夜明けが遅い。早朝雲の切れ切れに星を観察することができたが、空の低いところに雲がかかっている、カノープスを見ることはできなかった。朝早くから、ヤンバルクイナが鳴き交わし、宿舎周辺に比較的個体数が多いことが実感できた。空の色が少し変わってきたところで、希望者で早朝散策に出かけた。時間があまりなくざっと廻っただけであったが、ヤンバルクイナの鳴き声と足音に接することができた。やんばるの手付かずの自然に触れ、また訪れたいと強く感じた生徒も多かったようである。

やんばる学びの森を出発し、西海岸を一気に南下して恩納村のエメラルドビーチへ向かう。最終日はどんどん雲が切れ、青空とエメラルドグリーンの海、白い砂浜が美しく、また日差しも刺すようであった。泳ぐもの、ビーチバレーに興じるもの、風景を満喫するもの、生物観察の励むもの、皆思い思いに最後の沖縄を堪能した。去年の小湊実習も含め、実物からじかに感じるものを大切にしていきたいと感じた。

